

実現すべき豊かな未来 —GX、自律分散社会、そして Well-being—

The prosperous future to be realized

— GX, decentralized autonomous society, and well-being —

新エネルギー・産業技術総合開発機構 伊藤 智

New Energy and Industrial Technology Development Organization, Satoshi Itoh

E-mail: itohsts01@nedo.go.jp

20 世紀後半の高度経済成長期においては、GDP（国内総生産）が主たる KPI として取り組まれてきたが、現在は、2050 年にカーボンニュートラルを目指すこと、GX（グリーントランスフォーメーション）の実現が最重要課題となっている。時代の流れや社会変化に対応することは優先的な課題ではあるが、我々が目指すべき豊かな社会とはどういうものであるべきか、改めて考えてみることも必要ではないだろうか。

NEDO 技術戦略研究センターでは、世界の有識者や政府関係機関などが作成した 29 編の豊かさ（Well-being）に関する報告書から、人々が豊かさに関して何を重要と捉えているかを分析し、豊かな未来実現のために大切にすべき 6 つの価値軸と実現すべき 12 の社会像にまとめ 2021 年 6 月に公表した。¹

本講演では、我々が導出した豊かな未来のための価値軸と社会像について説明するとともに、豊かな未来実現を目指した技術開発などの活動をより良いものにするために、価値軸や将来像を活用する方法について、事例をもとに紹介を行う。

コロナ禍を受けて、少なからずデジタル化が進展し、リモート化や自律化が様々な場面で活用されニューノーマルを生み出してきている。このような新たなイノベーションは、コロナ禍のためだけでなく、カーボンニュートラルにも貢献しつつ経済発展を支えるものであり、更には人々の暮らしを豊かに（Well-being）するものでもある。例えば、地方に住みながらリモート技術により仕事に従事し、移動が減ることで CO2 排出量の削減に貢献しつつ、増えた自由な時間を余暇に楽しむ暮らしが可能になる。社会変化へ対応する受動的なイノベーションだけでなく、社会を積極的に変えていく能動的なイノベーションを目指すことが重要であり、そのような取り組みを検討する際に、価値軸と社会像を活用することができる。

また、現在求められている多くのイノベーションは、自律分散型の社会を目指した流れを示している。上記に例示した人々の地方分散が進めば、エネルギーの地産地消が促進される。自動車の自動走行や工場の自動化を進めるために導入される多数のセンサのデータを、クラウドまで送らずにエッジで処理するようになる。即応性が達成できるだけでなく、データの伝送量が減ることでエネルギー消費が削減される。自律分散社会への移行は GX 実現には必至の流れとなっている。

¹ https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101449.html